

凡例	学修目標に直接関連する科目区分	基礎教育		共創学部専攻教育科目					
		基礎教育必修	共通基礎科目	エリア基礎科目	エリア横断科目	協働科目	経験科目	エリア発展科目	ディグリープロジェクト

◇科目名の後に(※)印のある科目は、一方が日本語で、他方が英語で開講される。  
◇科目名の後に(※)印のある科目は、共創学部学を2つのクラスに分割して開講される。

学修目標		1年次				2年次				3年次				4年次					
区分	エリア	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
実践的 知識 (実 面 理 解 の 活 用)	・D. (共創的課題解決力) 「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」、「国際コミュニケーション力」の4つの力を総合して、実社会の課題解決に取り組むことができる。																	ディグリープロジェクト1	
																			ディグリープロジェクト2
新しい 知 見 の 創 出 (評 価 ・ 創 造)	・C-2-2. (協働実践力) 構想した課題解決方策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働して、実現可能な解決方策を提案することができる。																		
知識 ・ 理 解 の 応 用 (適 用 ・ 分 析)	・C-1-3. (能動的学習能力) 自らの課題意識を持ち、その課題を解決するために必要となる知識や能力を能動的に探究することができる。  ・C-1-2. (国際コミュニケーション力) 解決策の実行のために世界の多くの人にその内容を説明し、理解と協力を得ることができるコミュニケーション能力を持っている。																		
知識 ・ 理 解 の 習 得 (知 識 ・ 理 解)	・B-2. (情報リテラシー) 数値・データサイエンス等を基礎的リテラシーと捉え、文理を越えて共通に理解し、説明することができる。  ・B-1. (知識・理解) 課題解決に必要な基礎科学及び応用科学についての十分な知識について理解し、実社会の課題に結び付けて説明することができる。																		
主 体 的 な 学 び ・ 協 働	・A-2. (協働) 多様な知の交流を行い、他者と協働し課題解決にあたること ・A-1. (主体的な学び) 深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。																		
区分	エリア	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期		
学修目標	エリア	1年次				2年次				3年次				4年次					
学士課程の時期区分	エリア	入門レベル				基礎レベル				応用レベル				共創レベル					
アセスメント・プラン	エリア	達成度評価				達成度評価				達成度評価				達成度評価					
		基礎教育科目および共通基礎科目の成績評価。基礎教育の授業アンケート結果、アンケートリアルにおける学修報告書・学修計画書の記述内容の分析結果を確認				共通基礎科目・構想科目・エリア横断科目・エリア基礎科目・協働科目・共創基礎プロジェクト科目の成績評価。各授業の聴講生数と出席状況、専攻教育の授業アンケート結果を確認				共創科目-エリア発展科目・ディグリープロジェクト1、協働科目-共創プロジェクト科目、経験科目、エリア発展科目の成績評価。修学ナビゲーターへの修学相談状況、主エリアの選択確定状況を確認				ディグリープロジェクト3でのプレゼンテーションにおける発表内容、課題の解決策の創造を行う共創科目-ディグリープロジェクト2-3の成績評価を確認					

